

— 成人向け —  
**R18**  
ADULT ONLY  
18歳未満  
購入・閲覧禁止



女の私  
男女の私  
男の私

私の名前は、逢坂菜穂(おうさか・なほ)、年齢は十五歳の高校一年生、今年の夏も暑い日が続ぎ、まさにプール日和といった感じだ。クラスメイトの女子たちも、水着へと着替えるために更衣室へと向かっていく。だが、私は、その輪に入ることは出来な。校則に乗っ取った競泳用水着を着た女子たちが、見学席の私の前を通っていく。水着姿の同級生たちは、皆、色々楽しそうに話をしている。

だが、私の目は、そんな彼女たちの『身体』にと目が向けられてしまっていた。可愛らしい顔をして話をする女子の『胸』、豊かな胸は競泳用水着であつても、その大きさがわかるほどだ。別の女子は、スタイル抜群の長い脚を晒している。また別の女子は、大きな尻を揺らしながら、歩いている。それを見てしまうと、もう私は、その場にいることが出来なくなってしまう。

菜穂は今日も入らないの？

うん、ちょっとあんまり体調がよくなって

あれでしょ？  
男子にあんまり水着姿あまりに見られたくないとか？  
確かに、菜穂は、スタイルいいし、美人だもんねー  
その気持ちはよくわかるよ。  
なら、今度の休み、プライベートでプール行こうよ？

そうだね……あ、ごめん、私お手洗い

トイレへと駆け込んだ私は、個室にと鍵を閉めて、便座へと座った。  
大きく息を吐きながらも、私の呼吸が落ち着くことはない。  
そんな私のスカートを大きく膨らませるもの。スカート押し上げる太くて長い大きなもの……  
その体内、下半身から生み出されたものに、私は、顔を赤くしながらも、スカートをめくり上げる。  
それは、女性であれば、ありえないものであった……

臍まではあろうかという大きさの男性器。  
微かに身体を揺らせば、左右に揺れる。さらには、その根元には、  
テニスボール並みの睾丸まである。決して私が、男性という訳ではない。  
睾丸の裏には当然、女性器があり、その奥には子宮も存在している。  
私のワイシャツには女性特有の大きな胸も存在している。  
私は、男女双方の性を持っているのだ。  
双方の性を持った人間、それは、当然男女双方の性欲を持っている事となる。

どうして、毎回こんなあ、  
あんつ、ああつ、んはあ……  
だ、駄目、声漏らしたら、誰かに聞かれちゃうから……♡

お、おちんちん、シコシコするの止められない、  
私、私女の子なのに、はあ、お、男の子のおちんちんで、  
気持ちよくなってる。  
ああ、はあ、ああつ、胸も張って、んんっ！  
お、おっぱい揉みながら、おちんちん扱いてる、  
へ、変態すぎるっ！！  
んはあ！はあ！んはあ！  
だ、だめえ、駄目なのにつ気持ち良すぎる  
んんん！！はあ！！

あつ

あッ

はッ

ニキ  
ニキ

ちあ

はあ

んん

んん

んん

んん

んん

んん

んん

んん

んん

んん

んん

んん

んん

んん

んん

んん

んん

んん



この薬で、  
本当に私、普通の女子になれるのかな？

結局、あれから二回も射精をしてみました。私の性欲は衰える事を知らず、朝一度抜いても、絶対学校でオナニーをしないと私の身体は耐えられない体になってしまっていた。自室へと帰った私は大きく息を吐きながら、自分の机にと座った。

そんな私の机の前に置かれた錠剤が入った瓶。

それを見て私は、ようやく、それが手に入ったことに歓喜した。その薬は、私をこの快楽の毎日から救ってくれる特効薬であった。

その薬は、私の中の男性部分を外へと放出をすることで、私を完全な女性へと変化させる薬なのだ。これさえ飲めば、今までのような毎日毎日、自慰を繰り返すような悪夢から卒業をすることができる。高価な商品だったが、お金を貯めてようやく手にすることが出来た。

私は、その薬を飲み込む。何も変わらない……そう思った矢先、私の身体が火照り、今まで以上に、男性器が勃起してしまった。

いや、これだけ高いお金を払ったんだから、  
信じるしかないよね。  
お願い！私を普通の女の子にして……

ん……。これで、いいのかな？  
何も変わらないみたいだけど……

!?

……？か、身体が熱い!!  
な、なに？どうなってるの!?!  
いやだ、なんで、急に興奮して、凄く勃起して、何なの、  
はあ、はあ、はあ、私のおちんちん、  
こんな太くて、熱くて、硬くなってる!?!



大量の精液を放ち、その快楽で意識を失ってしまった私……、  
暫くして目を覚ました私は、部屋中に漂う精液の匂いに、思わず目を細める。  
これだけの大量の精液を放ってしまったんだ……しかも、自分自身を見ながらという倒錯的な自慰で。  
私は、そんな自分に自己嫌悪を抱きながら、身体を見る。すると、自分の身体に違和感を覚えた。  
そう……この精液を放った根源である男性器がないのだ。私は、目を見開いて自分自身の身体を見渡す。  
ない、どこにもない……私は、女性としての身体を手に入れることが出来たのだ。私は興奮し、震え声をあげる。

わ、私!? どうして私がそこにいるの?  
それに、その姿……男の子??  
まさか、私が精液を出したことで、  
その異性の部分が私になったっていうの??

冗談じゃない! どうして私が男になってるのよ!  
私は女の子になったたかっただけに!

これじゃあ、私だけが貧乏くじを引いてるじゃない!  
そっちの私は女の子になってるし!  
こんなの納得いかない!

ま、待って!!  
なにするつもり!?

精液を出して、女の子になれたのなら  
私が貴女に精液を注いであげる  
そうすれば、私も女の子になれるでしょ?

な、なに言ってるの!?!  
いや! 私は、女の子でいい!!  
それに、私同士で、え、エッチするつもり!?

今更、何言ってるのよ!!  
いつも鏡で自慰をしている貴女は  
私とエッチできるの嬉しいでしょ!?

だが、私以外の別の声が私の耳にと入った。私が視線を声の方向へと向ける。  
すると、そこには、『私』がいた。普段鏡で見る私自身がそこにはいたのだ。  
ただし、ただの『私』ではない。そこにいたのは、顔は私だが、薄い胸に、  
大きな男性器を挿らす、『男』になっちゃった『私』の姿がいた。  
一見すれば女性にしか見えないその姿は『男の娘』といえるかもしれない。  
私と私は、お互いを指さして、驚愕の表情を向けた。



よくもやってくれたわね！  
貴女のせいで今度は私になったじゃない！  
責任を取ってもらおうわよ！

お尻

お、お尻！お尻におちんちん挿入させられてる！  
んはあ！ふ、太い！大きい！こ、壊れる！こんなの！  
後ろからガンガン突き上げられて、  
お、お尻、私に壊される！！

お尻に流し込んだ男の私と、流し込まれた女の私の身体が離れる。  
ベッドにうつ伏せになりながら、私は大量の精液を流し込んだことで  
疲弊した身体を休ませる。すると、身体に違和感を覚える。身体が重たいのだ。  
視線を向けると、そこには、大きくなった自分の胸の姿があった。  
そして、下半身には、あの先ほど大量に射精をした男性器がない。  
そう、男の私は、女になることが出来たのだ。

私は嬉しさに、口元を緩ませながら、夢が叶ったことを喜んでいた。  
だからこそ、私は背後から忍び寄る者に気が付くことが出来なかった。  
私は背後から近づいてきた、もう一人の私に背後から襲われる。  
そして、お尻を向けられると、そこに大きな異物を挿入された。  
それが男性器であることにはすぐに気が付いた。そして、その持ち主も……。

さつきさんざん貴女が私を犯していたんだから  
壊れる訳ないでしょ！  
とつても気持ちよくてすぐに射精しちゃったくらいなものね？  
うううっ！た、確かに、き、気持ちいい！  
わ、私、私のお尻でき、気持ちよくなってる！  
もつともつと味わいたくなっちゃう

お尻

お尻

お尻

いやああ！ああっ！あんっ！あああ！  
こ、腰ガンガンぶつけ合って、わ、私のお尻感じちゃう！  
私のおちんちんに感じちゃうのほお！



自分同士での性交をしてしまった私。男にもなり女にもなった、双方で犯されて犯して……そんな状況の中、今の時運がどうなっているのか、私は目を覚ましてまず自分の身体を見た。すると自分の胸には大きな胸はなく、薄い胸がそこにはあった。ということとは、また、もう一人の私に取られたということだ。私は、もう二人の私を探す。

すると、そこで視線に入ったのは、私……女の私ではなく、男の私であった。私と私は、お互いを見て驚きの顔を見せる。そう、私と私は、どちらも男になつてしまったのである。どちらも男性器の快楽を忘れることが出来なかつたのだらう。その証拠に、私と私の男性器は、いまだに勃起しており、睨丸もあれだけ射精をしたというのに、いまだにぶづくりと大きく揺れている。

なんでどっちも男の子なのよ!?  
これじゃあ、女の子の私がないじゃない!

貴女がおちんちんが好きだから  
女の子に戻れなかつたんでしよう!?

そっちこそ男の子がいいから  
女の子になれなかつたんじゃない!

.....

.....

しょうがないわね、  
おちんちんから精液を出せば、女の子に戻れるんでしよう?

ええ二人で争つてもしょうがないから、協力しましょう

.....

私と私は、互いの下半身にしがみつくながら、互いの男性器へと顔を向ける。そこには、イヤらしい匂いを晒す自分の男性器があった。さんざん射精をしたというのに、勃起をさせている。鈴口からは先走りか精液かもわからぬ液体を垂れ流している。そして、お尻の穴からは下口下口と精液があふれ出していた。そんな変態すぎる自分の身体に、私は顔をそむけたくなくなってしまった。自分が女の子に戻るためなら何でもやるという気持ちで、その大きな男性器を口にと含む。

熱い男性器を感じ取りながら、舌で刺激をする私、それと同時に、私の男性器も熱い何かにと包み込まれる。それがもう一人の私であることはすくなくわかった。私は男性器を舌で丹念に濡らしながら、弱点である鈴口を舌で刺激をする。私の下半身からも強い刺激が走り、互いに互いの身体を抱きしめながら、しゃぶりを合す。

私のおちんちん熱い!! 苦くて、  
こんなの飲みたくないのに!!  
…私のだと思うと、勝手に飲んじゃう!

私のおちんちんも私にしやぶられて舐めとられちゃってる…  
鈴口、刺激強いっ! 私の弱点知ってるから、  
私の弱いところずっと刺激されちゃう!

顔にキントマぶつかってきて、臭い、でも、気持ちいい……  
私だから、私の身体だから、勝手に気持ちよくなっちゃう……  
私のおちんちんから口離せない、もっとしやぶって  
気持ちよくなつちゃうよ…

私も、私も一緒…!?  
おちんちんしやぶられて…  
しゃぶり合って、気持ちいい、気持ちいいよほおお……

シズンシズンシズン

シズンシズンシズン

シズン

シズン





次に目を覚ました私は、全身を精液まみれにさせた悲惨な状況だった。全身に絡みつく精液の匂い、これも自分が出したのかと思うと驚きだ。

私は、そこで胸の重たさに気が付いた。私の胸には大きな膨らんだ柔らかい胸があったのだ。これが求めていたもの。私は思わず自分の身体を抱きしめながら、その弾力性を確かめる。勃起した乳首、柔らかい胸の感覚。

私は思わずその感覚に興奮しながら、声を漏らす。すると、私の下の方から同じような声が上がったのが聞こえて、視線を移すとそこには、女の私が、自分の胸を揉んでいる姿であった。私と私は、ようやく女の私として変身したのである。私と私はお互いの身体を抱きしめながら、喜びを分かち合う。私の胸で感じる私の大きな胸、私の肌で感じる私の肌、私の目の前で熱い精液の匂いを晒した私の顔……私は、私を見て顔を赤く染めてしまう。

はあ、はあ、はあ……  
な、なに興奮してるの？  
もう男じゃなくなっただから、  
興奮しないでよ

そ、そっちこそ私の乳首に  
勃起した乳首押し付けてこないで、  
興奮してるのはそっちじゃない

それはそっちでもでしょ!?  
か、身体離したいのに、離れない……  
か、身体を近づけてこないでよ

身体同士が擦れ合っ  
き、気持ちよくなっちゃう!  
こんなのおかしいことなのに  
私と私の身体がキスしてる!

ああ!身体が擦れ合っ  
おっぱい同士が擦れて太腿同士が擦れ合っ  
駄目!私同士で感じ合っちゃう!!

ニキ  
ニキ  
ニキ





な、なにによ？  
そんなにおちんちん擦り付けてきて、  
本当におちんちんが好きなんだね

腰を揺らしているのは誰？  
私のおちんちんにぶつかってきて困るんだけど、  
気持ちよくなっているのはそっちでしょ？

私は貝合わせの刺激に物足りなさを覚えながら体を起こした。  
すると、私の下半身に大きく簀え立つ男性器が再度生み出されていた。  
男性になったわけではなく、私の胸には豊満な胸も残ったままであり、  
子宮が疼く感覚も残っている。  
私は元のふたなり女子になっていたのである。  
ビクビクと震える男性器は二本並んでおり、  
私と私の男性器同士が裏筋で押し付け合わされていた。  
そして貝合わせのままの状態で見つめながら、  
私と私はその状態で、お互いの顔を見ながら笑みを浮かべ合った。  
本当は、この男性器が欲しかったのだということを改めて知った。

おちんちん  
本当は欲しがってたくせに

おちんちん  
気持ちよかったくせに

私のことが好きな人が  
そういうこと言うんだ？

私のことが好きな人は  
そっちでしょ？









ああ、わ、私のおちんちんが、  
私のおまんこに入ってるっ!!  
んはあ!! 太くて固くて熱い  
私のおちんちんが、  
一緒に入ってるえ!!

ああ!! こんなの腰止まらなくなる!!  
私のおちんちん気持ちいい!!  
私のおまんこ気持ちいい!!

互いに体をドロドロにしながらも、私と私の性欲はまだ衰えてはいない。

いまだに勃起した男性器、疼く子宮。

私と私は、多く息を吐きながら、互いの男性器をお互いの女性器へと向ける。

私と私は同じ私である以上、求めるものも一緒……、犯したいし犯されたい。

その気持ちでお互いの男性器を相互挿入する。

挿入をしながら挿入される刺激、それは、

まさに自分自身に挿入をしている感覚であった。

あまりの刺激に、私と私は、身体を震わせる。

だが、それでももつと深く挿入をしたいと男性器は訴え、

子宮はさらなる刺激を求める。私と私はそれに抗えず、腰を打ち付ける。

ああんっ!!  
ピストン止まらない!!  
私のおまんこ熱いつ!!  
私のおちんちん太いつ

私、私、私っ!!  
♡♡♡





あとがき

この度は、『女の私 男女の私 男の私』をご購入いただきましてありがとうございます。  
今回、素晴らしい絵師様であるW様の手を借りまして  
無事、本作を皆様へお届けすることが出来ました。

今作は、ただの分裂ではなく、性転換を組み込んだ同一CP・自分姦作品となっております。

一兵卒のこの難しい内容を、素晴らしい絵で形にさせていただきましたW様には感謝しかありません。  
本当にありがとうございます。

同一CPも4作目となりまして、同一CPにも色々なパターンがあることを示せばと思います。

そのために、素晴らしい絵師様、そして購入してくださっている方の応援が大変嬉しく思っております。  
これからも、一兵卒は挑戦を続けていきます。

皆様の応援、これからもよろしく願います。

改めて、今回の制作に携わっていただきましたW様

購入された方、FANBOXやpixivで支援を頂いた方、応援をしてくれた方  
全ての方に感謝します。

本当にありがとうございます。

一兵卒

あとがき

本作品の絵を担当させていただきました、玖と申します。

この度は本作品をご購入くださり誠にありがとうございます。

一兵卒先生の書くエッチで淫靡な同一CP小説のヒロイン、  
菜穂ちゃんのエロさを少しでも描けていれば幸いです。

先生には沢山ご迷惑をおかけしましたが、素晴らしい機会を  
いただき本当にありがとうございます。

朽

奥付き

作品名：『女の私・男女の私・男の私』

企画：一兵卒

発行日：2022年8月

一兵卒

twitter <https://twitter.com/crossfire0720>

pixiv <https://www.pixiv.net/users/1422718>

FANBOX <https://crossfire0720.fanbox.cc/>

注意事項

※18歳未満の方は閲覧しないでください

※本作品内の画像を無断で  
使用・転載することを禁止致します

Title: "I, a Woman; I, a Man; I, a Man

Planning: Ippan Shogun

Publication date: August 2022

Ichibei Sotsugyo

twitter <https://twitter.com/crossfire0720>

pixiv <https://www.pixiv.net/users/1422718>

FANBOX <https://crossfire0720.fanbox.cc/>

Precautions

Please do not view this work if you are under 18 years old.

Unauthorized use or reproduction of the images in this work is prohibited.

Use or reproduction of the images in this work without permission is prohibited.

